

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)
松田 こずえ
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
ジェンダー平等意識を育む絵本についての研究—ノルウェーと日本を比較して—
3. 助成額
98,000 円
4. 実施期間
2019 年 8 月 ~ 2020 年 3 月
5. 実施状況
①2019 年 8 月～ ノルウェー語語学レッスン(ノルウェー語の翻訳のため)第 1、2、3 回(8/5、8/16、9/7)
②2019 年 9 月 15 日～24 日 ・ノルウェー科学技術大学図書館、クイーンモード幼児教育大学図書館、オスロ大学人文図書館にて、先行文献資料の収集 ・ノルウェーのトロンハイム及び、オスロの書店にて、ノルウェーのジェンダーや多様性に関するノルウェー語の絵本の購入(計 14 冊)
③2019 年 10 月 ・日本の国際こども図書館、公立図書館にて、日本及びノルウェーの絵本と、絵本に関する先行文献資料の収集 ・ノルウェー語語学レッスン第 4 回(10/8)
④2019 年 11 月 27 日 ・お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻の学生を対象に自主シンポジウムを実施し、研究内容の発表、絵本の紹介及び討論(お茶の水女子大学本館にて) 発表タイトル『子どもの絵本選書にみるジェンダー意識と子ども観—ノルウェーと日本との比較から—』
⑤2019 年 12 月 3 日 ・鶴川女子短期大学で担当する「比較乳幼児教育論」の授業において、研究内容の発表と絵本の紹介。専攻科及び学部 2 年の学生と共に授業内でノルウェーと日本とのジェンダー観に関する討論を実施 ・ノルウェー語語学レッスン第 5 回(12/8)
⑥2020 年 2～3 月 ・ジェンダーに関する日本語の絵本の購入(計 19 冊)(静岡市女性会館作成の「ジェンダー理解に役立つ絵本」「ジェンダーの刷り込みに気づく絵本」のリスト参照)
⑦2020 年 3 月 ・『お茶の水女子大学子ども学研究紀要』Vol.8 への論文投稿(2020 年 4 月査読結果待ち) 論文タイトル『絵本にみるジェンダー意識と人間関係に関する研究—ノルウェーと日本の絵本の比較から—』 ・ノルウェー語語学レッスン第 6 回(3/17)

6. 事業成果と自己評価

【事業成果】

本研究は、ノルウェー(2019年度男女平等ランキング2位)と日本(同121位)における子どもを対象にしたそれぞれの国の言語による絵本をジェンダー意識の観点から比較し、共通点や相違点を明らかにすることで、絵本におけるジェンダーに関する新たな視座を得ることを目的とするものであった。

ランダムに選んだ絵本の比較では研究の分析対象の恣意性を否定できないため、国際図書館連盟(IFLA)の企画により2015年に発表された「絵本で世界を知ろうプロジェクト」の国別の選書カタログ(同じ基準によって各国の司書により選ばれた10冊ずつの絵本のリスト)の絵本とリストを、ジェンダーの視点から分析した。竹村和子フェミニズム基金の助成により、日本からでは入手が困難なノルウェーの絵本を購入し、詳細に分析することが可能となった。絵本の分析には原著の翻訳が不可欠であり、渡航前から渡航後にかけて6回にわたって受講したノルウェー語学レッスン(助成を受けた)により可能になった。

比較研究の結果、ノルウェーでも日本でも、男子や男性を主人公にしたストーリーの絵本が多く選ばれていた。またノルウェーでは、対象年齢と同年代の主人公が伝統的なジェンダー規範と葛藤しながらもステレオタイプの殻を破り、自己の確立を目指すストーリーの絵本が多く選出されていた。一方、日本では、ジェンダー規範を意識せずに、明るく課題解決を目指すストーリーかつ、どの年齢にも好まれる絵本が多く選出されていた。絵本とリストの分析を通して、ノルウェーと日本のジェンダー観や人間関係に関する考え方の違いを明らかにすることができた。

研究成果について、お茶の水女子大学大学院での自主シンポジウムや、講師を務める鶴川女子短期大学の「比較乳幼児教育論」の授業、神奈川県と埼玉県の子育て支援員養成講座の中で、発表と絵本の紹介、討論を実施した。これらの議論を踏まえ、『絵本にみるジェンダー意識と人間関係に関する研究—ノルウェーと日本の絵本の比較から—』の論文にまとめ、『お茶の水女子大学子ども学研究紀要』第8号に、竹村和子フェミニズム基金の助成を受けた旨を記載の上、投稿中である。(掲載された場合には、2020年6月に発行され、その後お茶の水女子大学教育・研究成果コレクションサイト Tea-Pot にて公開される)

【自己評価】

研究テーマである「ノルウェーの保育における男女平等」について、保育教材である絵本の観点から検討することができた。子どもは、就学前から性別役割に関するステレオタイプを持つようになると考えられており、就学前に出会う絵本にどのようなジェンダー観が表れているかについて検討することには大きな意義があったと考える。ノルウェー語の絵本の原著を翻訳することにより、内容を理解し、分析することが可能になった。

助成していただいた資金を用い、ノルウェー語の本は国際図書館連盟の「絵本で世界を知ろうプロジェクト」のブックリスト、日本語の本は静岡県女性センター図書館のブックリストを参考に絵本を選び、購入した。購入した絵本には「竹村和子絵本コレクション」と名付けた。図書館の絵本も貸借利用することにより、助成していただいた資金を有意義に用いることができたと考える。研究の成果は概ね予定通りに発表できた。研究成果をまとめた論文は、当初の予定の『子ども社会学研究』から、投稿時期の関係から『お茶の水女子大学子ども学研究紀要』に変更し、投稿した(2020年4月査読中)。

7. 提出成果物

- ① 『お茶の水女子大学子ども学紀要』第8号 投稿論文(2020年6月発行予定)
- ② お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科自主シンポジウム2019年11月27日18時～発表プレゼンテーション資料
- ③ 購入絵本のリスト(ノルウェー語/日本語)